



ふれあい 放水路

2002
(平成14年)
第104号
11月



秋の風景

十月も半ばを過ぎる頃、朝晩の気温も下がり、冷え込むようになりました。この冷え込みによる日中との気温差で、木の葉が次第に色づくようになっていきます。

木々は青々と茂らせていた葉を、赤や黄色といった鮮やかな色彩へと変化させ、山は山頂辺りから徐々に色づいてきました。いよいよ紅葉シーズン到来です。

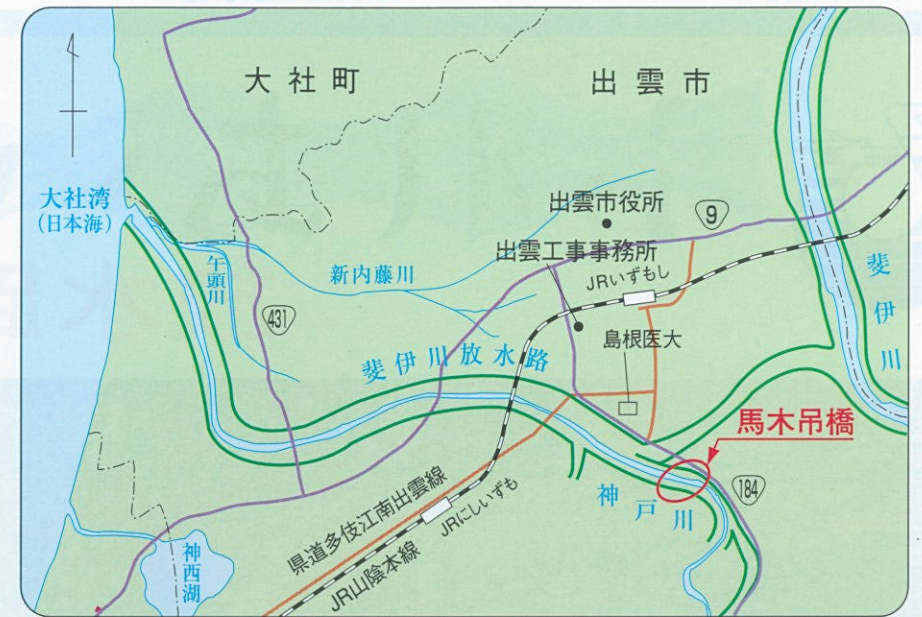
馬木町にある勝定寺の庭園でも、秋の情景にかかせない風物詩、モミジの紅葉が見頃を迎えています。真っ赤に染まったもの、黄色と赤が混じってオレンジがかった色に染まったものなど表情も様々で、それぞれに味わい深い趣が感じられ、この時期眺める風景は格別なものです。

紅葉の見頃は地域によって様々ですが、十一月中旬を過ぎる頃から葉が落ち始め、地面が枯れ葉でいっぱいになると、そろそろ冬の便りが届くようになります。

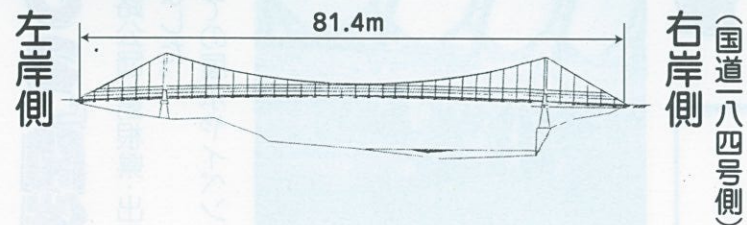
馬木吊橋の概要について

新しい馬木吊橋は、現在、下部工事(橋台・橋脚)を行っています。今年度中に、上部工事を発注し、平成16年には新しい馬木吊橋が完成する予定です。

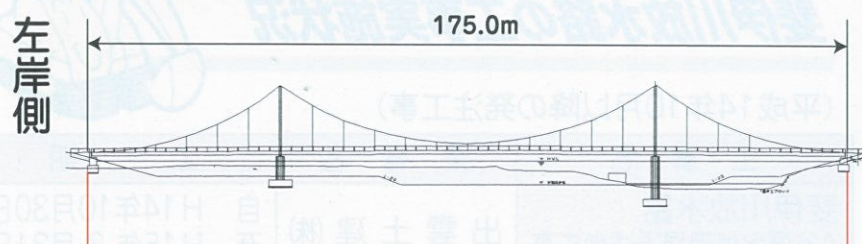
今回は、馬木吊橋の歴史と新しい馬木吊橋の計画の概要について紹介します。



現在の馬木吊橋



新しい馬木吊橋



橋の長さは現馬木吊橋の2.1倍に！！

馬木吊橋の計画について

新しい馬木吊橋は、馬木地区が景観形成地区の指定を受けていること、現在の吊橋が市民の観光遊歩道として親しまれてきた貴重な存在であることなどを考慮し、現橋を継承する吊形式の橋梁(歩道橋)を計画しています。

通常吊橋は、橋の両端の地中にアンカレイジ(橋桁を吊り下げるケーブルを固定するコンクリートブロック)を設置しますが、本橋では堤防内への大きな構造物の設置を避けるため、アンカレイジの不要な自旋式吊橋というタイプを採用しています。

橋桁については、現在の木製の材料に代わり、前号(第103号)で紹介した馬木大橋と同じ無塗装用鋼材を使用することとしています。

■吊橋タイプ

■地中アンカー式吊橋(明石海峡大橋など)

ケーブルをコンクリートブロックで引っ張り、橋桁を支えます。



■自旋式吊橋

ケーブルを引っ張る力を桁に伝えて橋桁を支えます。



■新しい馬木吊橋イメージ図

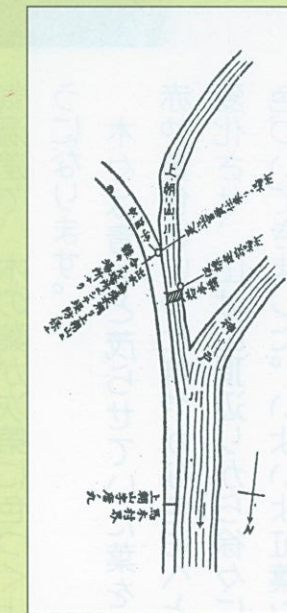


※実際の橋は、イメージと異なることがあります。

～馬木吊橋の歴史～

文献によると、現在の馬木吊橋は今から約70年前の昭和6年に造られたもので、それまでの木橋が出水により被災したのを受けて、出水時にも被災しないように吊橋として計画・施工されました。それまでの木橋は10年間で4回も流出したという記録が残っています。造られた当時は、吊橋としては神戸川では最初のもので、その後各地で同タイプの吊橋が造られましたが、今では神戸川に現存している吊橋はわずかとなっています。

なお、馬木吊橋架設にかかった費用は、当時のお金で2,250円(現在の貨幣価値に換算すると約450万円)、工期は約1ヶ月という記録が残っています。



町村道朝山古志線(馬木橋) 本橋は朝山古志線(馬木橋)ニ至ル主要線ニ架スル橋梁ニシテ 従来幅一、八二米ノ木橋ヲ架設セシモ出水ニ際シ其都度災 害ヲ被リ既往十ヶ年間に微スルニ四回流失セルノ事實アリ 今回架橋ニ當リ災害ヲ防止セントセバ最高水位點ヨリ高位 地點ニ架設セザレバ流失ヲ免ル、コト能ハズ之レガタメニ 八長高並ニ工費ノ増加ヲ招キ將來維持上至難ナリ故ニ吊 橋トセバ向後ノ災害ヲ防止スル共ニ經費ノ上ニ於テモ永 遠ノ策ナルベク本計画ヲナサントス



※出典は朝山コミュニティーセンター所蔵の「朝山村史」(上記写真)より

記事については朝山コミュニティーセンターのご協力を頂きました。紙面を借りてお礼申し上げます。

▲当時島根県に提出された「工事計画説明書」

ふれあい放水路

通信

大事にしたいね
きれいな川

葦川放水路

斉清掃

十月十日、葦伊川放水路事業用地内の一斉清掃が行われました。

これは、葦伊川放水路の施工業者で構成している「葦伊川放水路安全協議会」が実施したもので、日頃、工事施工の際に近隣住民の方々にご協力頂いていることに作業員自ら感謝の気持ちを表すとともに、不法投棄等が行われない環境整備を目指して行われたものです。

この日の作業は、およそ三〇〇人の参加のもと、古志大橋周辺と半分大橋周辺を中心に、歩道の草刈りやガードレール・標示物等の清掃をはじめ、周辺や河川内のゴミ拾いなどが行われ、およそトラック三台分のゴミや廃棄物等が収集されました。



土木の日フェア

「しまね建設技術展2002」開催

十一月二日、二日の両日、出雲ドームで国土交通省・日本道路公団・島根県・出雲市の主催による「しまね建設技術展2002」が開催されました。

人々の豊かで健康な生活を支える土木・建設技術についての展示やイベントを通して、一般の方々に公共事業に対する理解を深めて頂くこと、「地域づくり・環境・安全・新技術」の項目別に、それぞれの取り組みを紹介しました。

地域づくりのコーナーでは、葦伊川・神戸川治水事業の概要をパネルや模型等を使って紹介し、集まった人たちの関心を集めていました。

その他、特産品販売やキャラクターショー、ラジオの公開録音なども行われ、会場は親子連れをはじめ、多くの人出で賑わいました。



神戸川ラインサミット開催

十一月三日、簸川郡佐田町の須佐温泉ゆかり館で、「神戸川と環境」水系連携による共生のまちづくり」をテーマに神戸川ラインサミットが開催されました。このサミットは、神戸川と国道八四号で結ばれたまち(出雲市・大社町・佐田町・頓原町・赤来町)が協力して、まちづくりや地域振興を図ることを目的に、平成六年度から毎年行われているものです。

サミットでは、各首長がパネリストとなり、それぞれの地域振興計画をはじめ、各地域の情報発信による交流や、観光やレジャーによる交流促進など様々な意見交換が行われました。



葦伊川放水路の工事实施状況



(平成14年10月以降の発注工事)

| 工事名 | 業者名 | 工期 |
|------------------------|----------|-----------------------------|
| 葦伊川放水路 A谷濁水処理場造成他工事 | 出雲土建(株) | 自 H14年10月30日 至 H15年3月31日 |
| 葦伊川放水路 新宮川3号樋門ゲート工事 | (株)大和鉄工所 | 自 H14年11月14日 至 H15年3月31日 |

国土交通省中国地方整備局
出雲工事事務所

〒693-0023 出雲市塩冶有原町5丁目1番地
☎(0853)21-1850

メールアドレス E-mail: izumo@info.cgr.mlit.go.jp
ホームページ http://www.cgr.mlit.go.jp/izumohyousi.htm

本誌に関するご意見やご要望などがございましたらお寄せください。

問い合わせ先: ふれあい放水路担当
放水路工事室 事業対策官